

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議

次 第

〔 日 時 令和4年2月18日(金) 15:30～17:00 〕
〔 場 所 飯田合同庁舎 講堂 (Web 会議) 〕

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

- (1) 社会変化を踏まえた新たな視点(素案)について
- (2) リニアバレー構想実現プラン基本方針に基づく戦略的チャレンジの方向性と課題について

4 報告事項

- (1) リニア駅周辺整備の検討状況について
- (2) リニア開通効果を地域振興に活かすビジョンについて
- (3) 経済界との連携について

5 閉 会

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議

出席者名簿（敬称略）

区 分	所 属	氏 名
座 長	長野県知事	阿 部 守 一
市 長	飯田市長	佐 藤 健
	伊那市長	白 鳥 孝
	駒ヶ根市長	伊 藤 祐 三
広域代表	南信州広域連合代表（豊丘村長）	下 平 喜 隆
	上伊那広域連合代表（宮田村長）	小田切 康 彦
長 野 県	上伊那地域振興局長	竹 村 浩一郎
	南信州地域振興局長	丹 羽 克 寿
	伊那建設事務所長	市 岡 恵利子
	飯田建設事務所長	細 川 容 宏
	リニア整備推進局長	斎 藤 政一郎
オブザーバー	木曽広域連合代表（南木曽町長）	向 井 裕 明
	木曽地域振興局長	神 事 正 實

社会変化を踏まえた新たな視点（素案）について

伊那谷自治体会議事務局

1 本素案の位置づけ

平成 28 年 2 月にリニアバレー構想を策定し、6 年が経過する中で、ゼロカーボン社会の実現、コロナで顕在化してきた地方回帰の潮流、デジタルトランスフォーメーションの加速化の必要性など、社会の変化を踏まえた新たな視点について、自治体会議幹事会等において議論した内容を整理

◆ご議論いただきたいポイント

(1) リニア開業を活かした地域振興のために、伊那谷で連携して重点的に取り組むべき視点は何か。

(2) 素案に記載の事項以外に新たな視点はないか。

2 今後の進め方

- ・ 本日、皆様からのご意見を踏まえて、幹事会において素案を整理し、民間等からも意見を伺った上で、リニアバレー構想に追加すべき項目については次回の自治体会議に諮る予定
- ・ 新たな視点を踏まえて、戦略的チャレンジ（伊那谷で連携して喫緊に取り組むもの）の目的、取組内容を検討

●リニアバレー構想に加える新たな視点（素案）

(1) アフターコロナ（つながり人口、働き方・暮らし方）

- ・ コロナ禍で加速したパラダイムシフトにより顕在化した移住・つながり人口など地方回帰の潮流を地域の持続的発展につなげる
- ・ 自らの人生を自らデザインし創造的な生き方が実現できる地域づくり

分 野	視 点
移住定住	○多様性を尊重し、幅広い価値観を持った人々がいきいきと暮らせる地域づくり ○若者や子育て世代などにも選んでもらえる環境整備（来訪したくなる拠点づくり、魅力ある職場づくり）
つながり人口 (二地域居住)	○地域や人のつながりの中で生まれる「つながり人口」の創出 ○副業・兼業等を通じ、地域の「関わりしろ※」に寄与する都市部の人材の確保 ※地域を良くするために人が関わる余白、伸びしろ ○ターゲットを明確にしたテレワーク・ワーケーションの推進

(2) DX (デジタルトランスフォーメーション)

- ・移動や買い物、医療、教育などあらゆる分野でDXを推進
- ・人口減少や少子高齢化が引き起こす地域課題を克服するとともに、地域内外の人々に対する新たな価値を創出

分 野	視 点
広域観光	○観光地のデジタル化、キャッシュレス化の推進 ※実証実験を繰り返しながら広域的に普及 ○IoTを活用した伊那谷の広域的な情報発信 ○交通や体験、宿泊予約・決済を一体的に行う仕組みとしての観光型 MaaS の研究
二次交通	○地域公共交通の利便性向上に向けた MaaS の研究 ○AI 自動配車・乗合タクシーの運用促進
新技術の活用	○在宅でも遠隔診療と服薬指導が受けられるオンライン診療の推進 ○生活必需品の注文・配送や交通サービスの予約など、サービスプラットフォームの構築による買物弱者支援の推進

(3) ゼロカーボン

- ・森林や水、太陽光など恵まれた地域資源を最大限活用して再生可能エネルギーを普及
- ・エネルギーの地域内経済循環を構築することにより脱炭素社会を実現

分 野	視 点
創エネ・省エネ化の推進	○地域の再生可能エネルギーを活かした、エネルギー自立地域づくりを推進 ○リニア駅周辺の脱炭素街区・飯田版スマートグリッドの構築 ○県企業局と連携した“太陽と水と自然エネルギーの谷”の構築
CO2 吸収源対策	○地元産木材の利用拡大を図り、計画的な森林整備を推進 ○リニア駅周辺の整備におけるグリーンインフラの導入推進
横断的な取組	○二次交通、観光、産業等各分野におけるゼロカーボンの推進 ○多様な主体が参画するプラットフォーム等を活用した、情報交換や事業検討等の実施

リニアバレー構想実現プラン基本方針に基づく戦略的チャレンジの 方向性と課題について

伊那谷自治体会議事務局

1 広域二次交通の整備

(1) 上伊那・木曽圏域へのアクセス検討状況

- ・ 高速バスの活用を検討（伊那谷自治体会議 交通担当課長会議）
 - ◆伊那市や駒ヶ根市のインターチェンジを交通結節点と想定し、リニア長野県駅から短時間で接続
 - ◆伊那谷、木曽の主要観光地間をバスで接続するルート

(2) 検討を進めるために方向性の整理が必要な課題

① 導入する交通手段に求める優先順位

- ・ リニア利用者増に向けた伊那谷地域のアクセスとして求められる交通手段（利便性、速達性、定時性、経済性の視点など）
- ・ 対象とする住民・来訪者（観光、ビジネス、通勤通学の視点など）起点で重点的に整備すべき交通手段の優先順位
- ・ 利便性に配慮した交通結節点など接続のあり方

② 新たな交通技術の導入

- ・ 将来の交通新技術（自動運転、MaaS、デマンド交通など）の導入に向けた検討と開業までに準備すべきことは何か

③ 脱炭素の取組

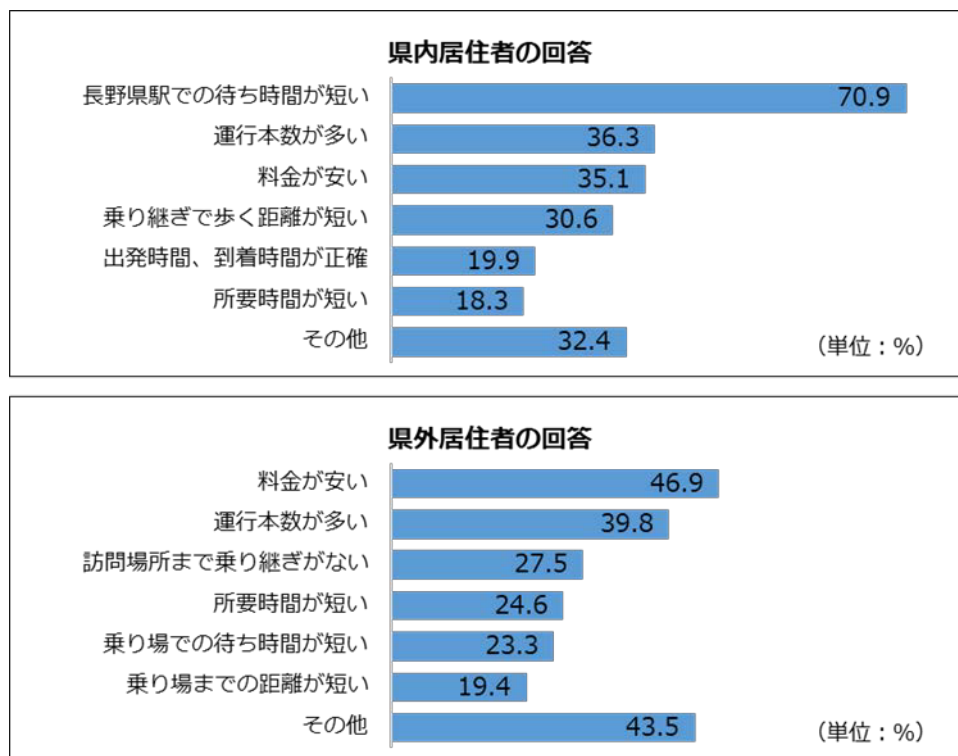
- ・ 脱炭素の視点をどう取り入れるべきか

◆ご議論いただきたいポイント

※各自治体として、また各圏域としての視点から、上記の課題についてご発言をお願いします。

- (1) 交通手段の優先順位
- (2) 新たな交通技術
- (3) 脱炭素の取組

リニア長野県駅からのアクセス交通を選択する際に重視する項目について



出典：リニア中央新幹線長野県駅とのアクセスのあり方調査事業報告書
(R 元 上伊那・南信州地域振興局)



上記項目を満たす可能性のある移動手段

料金が安い ⇒ バス、鉄道

運行本数が多い ⇒ バス

訪問場所まで乗り継ぎがない ⇒ バス、タクシー
レンタカー

所要時間が短い ⇒ バス、タクシー、レンタカー

乗り場での待ち時間が短い ⇒ バス、タクシー

2 グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進

(1) 伊那谷自治体会議（R3.2.9）における意見

- ① 外国企業をターゲットにするよりも、地元企業や国内企業をターゲットとするべきではないか。
- ② 通信環境の整備に力を入れて、誰もがどこでも働ける環境を作ることが重要。
- ③ アフターコロナを踏まえ、企業の誘致のあり方を見直していかなければならないのではないか。

(2) 上記意見に対する考え方

① グローバル企業の範囲

国内外を問わず、グローバル経済圏で外需を生み、雇用創出も含め地域発展に寄与する企業

② 通信環境等の整備

サテライトオフィス等における通信環境の整備については、信州リゾートテレワーク推進事業において、現状調査を実施し標準的な規格を検討するなど、利用者の増加につながる運営支援を行う。

③ 県としての企業誘致の方向性

リニアバレー構想 リニアバレーにおける企業誘致の方向性

構想策定後の状況の変化

国内では、

コロナ禍の影響等により、首都圏で地方回帰が進行、IT企業を中心に本社機能の一部移転が増加

海外では、

アジア情勢等の変化を踏まえ、国内回帰進行、製造業の生産拠点を国内へ立地する企業が増加

変化を好機と捉え、



地域アセット（リニア等） × IT企業 × 製造業など

シナジー効果をもたらす企業誘致はできないか



地域アセット × 世界を変えるテクノロジー グローバル企業を誘致

例： 農産品 × フードテック企業 医療・介護 × ヘルステック企業

森林資源 × クリーンテック企業 大学・専門学校 × エドテック企業

航空宇宙 × エス・バード × 製造業

◆ ご議論いただきたいポイント

※ 各自治体として、また各圏域としての視点から、リニアバレー構想に関連し
どのような企業の誘致を目指していくか、ご発言をお願いします。

立地動向等を踏まえた企業誘致の方向性

【リニアバレーの産業構造】

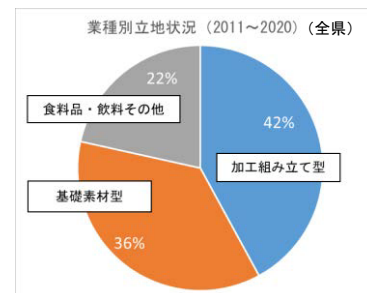
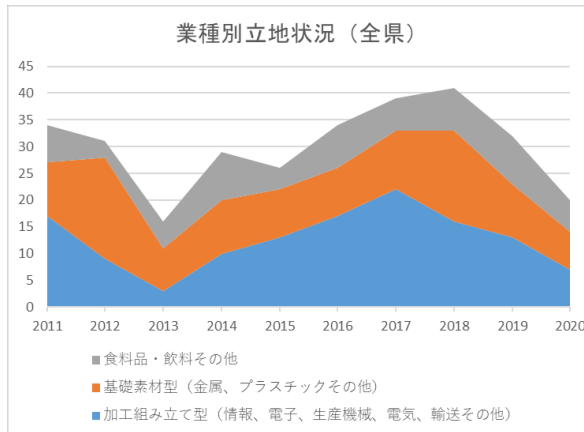
全県 10 万事業所の中、4 人以上の事業所は約 5,000 社、うちリニアバレー管内で 1,100 社

【上伊那】製造業が 38.6% 寒天、食品、ワイン・シードル、先進的な開発・製造が盛ん

【南信州】製造業が 31.2% 水引、凍り豆腐、半生菓子、航空宇宙・メディカルに取り組む企業が増加

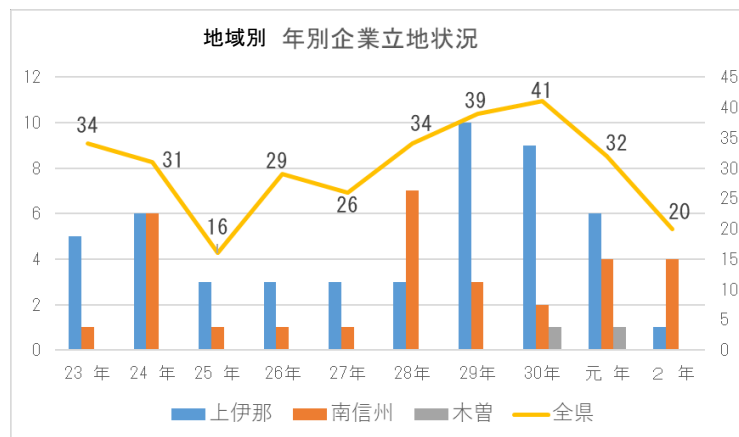
【木曽】製造業が 38.5% 食品、木材・木製品、発酵食品の需要拡大に対応

【過去 10 年間の企業立地動向】



※上伊那・下伊那・木曽地域全体の状況は全県とほぼ同様の傾向

出典：経済産業省「工場立地動向調査結果」



過去 10 年の立地動向を踏まえた新たな企業誘致の可能性

※長野県ものづくり産業振興戦略プラン
産業イノベーション創出型プロジェクト

【業種別の状況】

- 加工組み立て型産業の割合は多い
- 素材産業は加工に次ぐ割合
- 食品産業の立地は底堅く推移

【イノベプロジェクト※】

- No. 16 航空機システム産業の集積
- No. 14 ゼロエミッション生産技術による環境調和型産業の集積
- No. 6 健康増進と経済活性化に寄与する食品関連製造業の集積

【新たな視点】

- 産業 DX
- クリーンテック
- フードテック

【地域別の状況】

- 全県同様、上伊那は落ち込み傾向
- 木曽は全体として立地少ない
- 南信州は近年増加傾向

【イノベプロジェクト】

- No. 5 オープンイノベーション日常生活動作支援産業の集積
- No. 7 発酵食品による地域のブランディングを通じた産業の集積

【新たな視点】

- ヘルステック・エドテック
- クリーンテック

リニアバレー構想実現プラン基本方針

＜伊那谷地域の戦略的チャレンジ（リニア開業に向けて、各機関が連携して喫緊に取り組むもの）＞

進捗状況及び令和4年度の進め方

- ① 景観形成、共通サイン整備
【三風の会＋南信州広域連合】
- ② 広域二次交通の整備
【行政＋民間事業者】
- ⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充
【企業・経済団体＋市町村＋地域振興局】
- ⑥ 周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備
【広域DMO＋観光機構】
- ⑩ グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進
【県産業労働部・地域振興局＋市町村】
- ⑪ 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進
【県産業労働部・地域振興局＋市町村】

リニアバレー構想実現プラン基本方針 戦略的チャレンジ①

景観形成、共通サイン整備

■チャレンジの目的

- 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす

1 令和3年度の取組実績

＜地域の連携＞

① 調和のとれたサインの整備等、伊那谷の景観形成に向けた取組

○ 各地域の取組

＜上伊那地域＞

- ・ 不要看板撤去及び三風モデル看板等の設置促進
改善 59件（R2.10～R4.1実績）
- ・ 伊那谷風土記街道沿いの広告看板のあり方について検討開始

＜南信州地域＞

- ・ 景観重点化路線（サイン整備・支障木の除去等）の選定
- ・ 「不要・危険・意味がない等の看板」の調査・改善
調査 160件、改善 42件（R2.9～R3.9実績）

○ 上伊那・南信州の連携した取組

- ・ 南信州フルーツラインのサイン整備に向けた
合同会議（三風モデル看板の導入検討）
- ・ 景観形成に関する各地域の取組事例を学び
合う相互視察・情報交換を実施

○ 成果（三風モデル看板の設置）

高森町：2箇所、大鹿村：公共サインの設置を決定



＜山岳サインシステムの統一＞

② 「南アルプスユネスコエコパークにおける登山道誘導標識のガイドライン」による取組推進

- ・ ガイドラインに基づく看板設置を呼びかけ

③ 中央アルプスのサイン統一に向けた関係市町村との調整等

- ・ 山域全体の統一的な道標の整備に向けた素々案を策定
- ・ 関係者による協議を開始

2 課題

○ 景観の保全・発掘・発信に向けた取組の推進

伊那谷で調和のとれた景観を形成するため、サイン整備に加えて豊かな景観を保全・発掘・発信する取組が必要

3 令和4年度の取組及び主体（案）

＜地域の連携＞

① 調和のとれたサインの整備等、伊那谷の景観形成に向けた取組

○ 各地域の取組

＜上伊那地域＞【三風の会】

- ・ 伊那谷風土記街道沿いにおける風景ルールづくりの模索

＜南信州地域＞【景観形成プロジェクト会議（南信州広域連合・飯田建設事務所）】

- ・ 景観重点化路線の取組検証、ガイドラインの研究
- ・ 看板調査の継続（～R7）

○ 共通の取組【三風の会・関係市町村・南信州広域連合】

- ・ 風景に調和したサインの導入を検討
- ・ 各地域の取組を学び合う相互視察・情報交換の継続実施

＜山岳サインシステムの統一＞

② 南アルプスユネスコエコパークにおける取組の推進

【南アルプス自然環境保全活用連携協議会】

- ・ ガイドライン活用の周知、建替・新設等の実績調査

③ 中央アルプスのサイン統一に向けた取組

【中央アルプス地区山岳遭難防止対策協会、駒ヶ根市】

- ・ 中央アルプス縦走路においてモデル的な取組（看板設置）を開始

＜新規事業＞

④ 伊那谷ビュースポット発掘・発信事業の実施

【上伊那地域振興局、南信州地域振興局】

○ 目的

- 伊那谷の隠れた景観スポットを発掘し、保護と活用を推進することで魅力アップを図る

○ 内容

- ・ 市町村と連携したビュースポット写真の通年収集
- ・ インスタグラムを活用したフォトコンテストの実施
- ・ 収集したビュースポットについて、SNSの活用や地域の機関紙等と連携した情報発信の検討



■チャレンジの目的

- 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす
- 国内外から人を惹きつける地域をつくる

1 令和3年度の実績

検討の範囲	検討主体
① 伊那谷・木曽圏域を越えた拠点へのアクセス	県（交通政策課、リニア整備推進局）
② 伊那谷・木曽圏域内の広域二次交通の結節点	伊那谷自治体会議（交通担当課長会議）
③ ②の結節点等から市町村管内の目的地までのアクセス	広域連合、市町村

令和2年度に整理した上記役割分担により、伊那谷・木曽圏域内の広域二次交通に関する検討等を実施

- ① 高速バスを主軸とした広域二次交通のルート及びスケジュールを検討（スケジュールの詳細は別添資料1のとおり）
DMO等に観光地へのアクセスに係る課題等について意見照会を行った結果を踏まえ、広域二次交通のルート（シャトルバス）を追加
- ② MaaS研修会の開催
第1回：テーマ「MaaSによる地域課題解決とその可能性について」
第2回：テーマⅠ「MaaSを活用した観光地づくりについて」
Ⅱ「観光型MaaSの実施例について」
- ③ 3圏域（上伊那・南信州・木曽）の広域的な公共交通路線をまとめたマップの作成

2 課題

- ① バス路線の詳細な検討
バス路線の申請にあたっては、関係者との調整（停留所の新設を含む）、需要量等の調査が必要であることから、長野県公共交通活性化協議会の検討を踏まえた詳細な検討が必要
- ② MaaSの構築
伊那谷地域におけるMaaSの導入を進めるためには、交通事業者、観光施設、宿泊施設など関係する事業者と連携して研究を進めることが必要

3 令和4年度の実績（案）【取組主体】交通担当課長会議

- ① 広域二次交通のルートの詳細検討
ア 高速バス
高速道路区域内に設ける交通結節点（バス停の新設箇所）を整理
イ シャトルバス
交通事業者、DMO等にヒアリングを行い、民間における考え方を整理
ウ 一般道の活用
目的地及び移動手段について検討
- ② MaaSの活用研究
県関係部署と連携し、DMOや民間事業者とともに「観光型MaaS」の取り組み方について検討
- ③ 長野県公共交通活性化協議会との調整
上記①・②について、長野県地域公共交通計画（広域的な「移動の軸」）、「MaaSの基盤づくり」の検討・取組との調整

■広域二次交通のルート整備に係る想定スケジュール

別添資料 1

【高】…高速バス 【シ】…シャトルバス 【共】…高速バス、シャトルバス共通

準備項目		5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	リニア開業年
関係者との調整	【共】 交通事業者協議						
	【高】 NEXCO協議※						
	【高】 長野県公共交通活性化協議会との調整						
	【シ】 観光施設運営者、事業者協議						
需要調査	【共】 観光客予測 バス利用需要						
	【シ】 実施路線等検討						
運行計画	【シ】 試験運転						運行開始
	【高】 実施路線検討						
	【高】 試験運転						
	【高】 運賃、便数、ダイヤ検討						
	【高】 路線認可						運行開始
	【高】 整備計画変更手続き（高速区域）※						
環境整備に係る調査設計、工事	【高】 バス停留施設※						
	【高】 路線バス乗り入れスペース※			調査設計	工事開始	整備完了	
	【高】 待合環境※						
	【高】 駐車場※						
	【高】 案内設備※					工事開始	整備完了

※ 高速道路区域内（SIC等）にバス停留所等の設置を希望する市町村が対応するもの

■チャレンジの目的

- 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす
- 地域を支える産業の活性化

1 令和3年度の実績

①「伊那谷deキャリア教育研修会」の開催

- 目的
上伊那・南信州地域それぞれの良さ・素晴らしさを共有し、教職員をはじめ伊那谷の未来を担う世代の育成関係者のつながりをつくる
- 参加者
人材育成関係者161名（内訳）教職員83、行政職員54、産業界13、地域住民等11
- 内容
講演（講師：平田オリザ氏）、鼎談、グループワーク
- 成果
・伊那谷の育成関係者が、地域の未来を語り合う初めての機会となり、地域を枠を超えた関係者のつながりや一体感が醸成
・人口減少や高齢化など、地域の危機的現状及びキャリア教育の目指すべき方向性を共有
・参加者の満足度は8割超



② Facebook「伊那谷deキャリア教育」による情報発信

- 目的
キャリア教育の取組を共有するとともに、上伊那・南信州地域それぞれの「違い」「良さ」を知り、取組・連携を促進する
- 掲載内容
小学校ふるさと学習、中学校キャリア教育、高校探究の学び 等
- 投稿数、フォロワー
42投稿、106人
- 成果
・伊那谷地域のキャリア教育の実践的な取組の共有
・フォロワーの投稿の拡散による横のつながりが拡大

2 課題

- ① キャリア教育関係者の更なるネットワークづくりの推進
- ② 上伊那・南信州地域が連携した取組の推進

＜人材育成関係者のアンケート結果＞

- ・今後も両地域の交流の場を設けて欲しい
- ・若い教員や企業からの参加が増えると良い
- ・若者が戻りたくなる、まちづくりの具体的な取組を知りたい
- ・学校や企業の取組、子どもたちが自ら発信する情報が見たい

3 令和4年度の実績（案）【取組主体】実務担当者会

① キャリア教育研修会の開催

- ・育成関係者のつながりを増やすため、継続して開催
- ・若手教職員や企業からの参加を促すため、働きかけを強化
- ・事例発表を取り入れる等、内容を充実

② Facebook掲載内容の拡充

- ・人材育成関係者に投稿を呼びかけ、新たな視点による投稿を含めて掲載数を拡大・充実

③ 地域の取組への相互参加を促進

- ・各地域で行われている取組を学びあうために、相互参加を促進

④ 連携した新たな取組の検討

- ・各地域で行われている取組の連携を検討

4

■チャレンジの目的

- 国内外から人を惹きつける地域をつくる

1 令和3年度の実績

① 3地域周遊コンテンツ・コースの検討

- 国内向け3地域周遊コースの造成に向けた取組み
旅行会社・メディアによるファミトリップの実施（詳細別紙）
（上伊那-木曽、上伊那-南信州、南信州-木曽の3コース）
- インバウンドモデルコース造成
コンテンツ開発、モデルコース造成ワークショップの実施
海外旅行会社との商談（3/1～3オンライン）
造成コンテンツ
（飯田市）和船下り体験、大平宿滞在体験（伊那市）田楽座・伝統芸能体験
（飯島町）しめ縄作り＆囲炉裏料理体験、（王滝村）御嶽古道＆滝行
（辰野町～塩尻市奈良井）初期中山道サイクリング ほか
- 成果
・情報共有に留まらず、誘客に向けた具体的な取組を開始
・商品販売に向けた課題の把握



〔ファミトリップ（天竜川ラフティング）〕

② 3地域の観光関連組織の見直し、各地域内責任者の明確化

- 上記①を実施する主体の発足（R3.3）
・伊那路木曽路意見交換会
（一社）長野伊那谷観光局、（株）南信州観光公社、木曽観光連盟
（一社）木曽おんたけ観光局、（一社）上松町観光協会、
（一社）南木曽町観光協会
（一社）長野県観光機構、上伊那・南信州・木曽地域振興局

③ 広域観光推進体制（案）の作成、方向性の検討

- 伊那谷の観光ビジョン策定について情報交換
（長野伊那谷観光局、南信州観光公社、飯田市、地域振興局）

2 課題

- ① 3地域連携により造成した商品を継続的に販売するための仕組みづくり
- ② 3地域コンテンツの磨き上げと市場開拓

3 令和4年度の実績及び主体（案）

① 3地域周遊コンテンツ・コースの検討

- 国内向け3地域周遊コースの造成に向けた取組み
【伊那路木曽路意見交換会】
・商品に応じたプロモーション・販売手法の検討及び合意形成
・3地域コンテンツの磨き上げと市場開拓のためのモニターツアー実施
- 水引、シルク産業、木曽の伝統工芸などに焦点を当てたインバウンドコンテンツの創出（観光庁事業）
【観光機構、木曽観光連盟、長野伊那谷観光局、南信州観光公社、上松町観光協会、中部森林管理局】
・伝統的工芸品や農家の手仕事等の製作工程の再現や体験、匠の技術紹介による誘客コンテンツづくり
・技術を継承し続けてきた地域住民との滞在交流型コンテンツ構築（モニターツアー、ファミトリップ、ガイド人材育成など）

② 3地域の観光関連組織の見直し

- 【伊那路木曽路意見交換会、伊那路・木曽路広域観光連携会議】
○意見交換会と連携会議の関係性を整理
（例）意見交換会を連携会議の部会として位置付ける等

③ 広域観光推進体制（案）の作成、方向性の検討

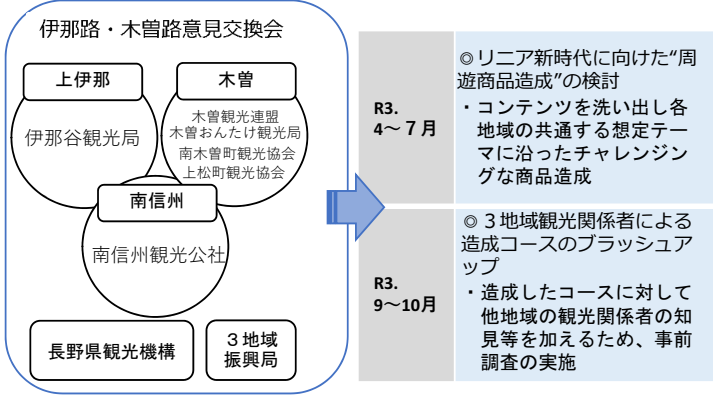
- 【上伊那広域連合、長野伊那谷観光局、南信州観光公社、南信州広域連合、飯田市、3地域振興局、観光機構ほか】
○リニア開業までに必要な取組と役割分担の協議

5

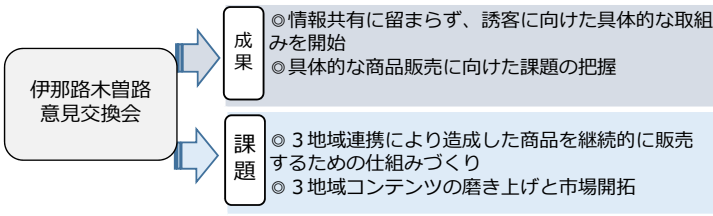
■事業の目的

○リニア中央新幹線及び三遠南信自動車道の開通を見据え、上伊那・南信州・木曽の3地域が連携した観光誘客に向けた具体的な取組を推進させるため、3地域周遊コースの検討とファムトリップを実施

■3地域における実施体制及び取組の進め方



■実施体制における事業実績



■ファムトリップ事業実績

【上伊那－木曽コース】 参加メディア5名
令和3年10月3日（日）～10月4日（月）

中尾座・歌舞伎なりきり体験（伊那市）
わらじ作り体験（飯島町）
早太郎温泉【宿泊】（駒ヶ根市）
奈良井宿中山道ウォーキング（木祖村）
お六櫓磨き体験（木祖村）

★コンセプト
地元の伝統文化とアクティビティの融合

★ポイント
専門家指導のもと伝統的なわらじ体験制作したわらじは翌日ウォーキングにて使用

★得られた課題
「わらじ作り体験」
職人の思いを聴くことができる貴重な体験だが、作業時間が長いため工夫が必要
（奈良井宿散策）
馬籠宿・妻籠宿とは異なる特徴あるコンテンツが必要

【上伊那－南信州コース】 参加メディア5名
令和3年10月6日（水）～10月7日（木）

地蜂（すがれ）追い体験（伊那市）
しらびそ高原【宿泊】（飯田市）
下栗の里・展望台（飯田市）
天竜川ラフティング（飯田市）
天竜峡そらさんぽ（飯田市）

★コンセプト
自然とアクティビティを一体として体験

★ポイント
伊那谷に古くから根付く昆虫食文化を地元愛好家と共に体験

★得られた課題
「地蜂（すがれ）追い」
ここでしか体験できない希少性があるが、商品化に向けて、地蜂の巣ができる時期的な課題、少人数でのみ対応可能な地元の受入体制が課題

【南信州－木曽コース】 参加メディア4名
令和3年10月11日（月）～10月12日（火）

工房・菜（な）や木工体験（阿智村）
妻籠宿での分宿【宿泊】（南木曽町）
からすみ作り体験・妻籠宿散策（南木曽町）
赤沢自然休養林（上松町）

★コンセプト
自然と健康をテーマに地域特有の文化等の体験

★ポイント
SDGsに着目し、地域のみどりを活かした天然木でのスプーン制作を体験

★得られた課題
「からすみ（伝統菓子）作り」
シンプルなお菓子であるため、お菓子作りの行程の中にアレンジを加えていくことが必要
また、地元住民と更に懇談する機会を設け、一歩踏み込んだ地域の情報を得られると面白い

リニアバレー構想実現プラン基本方針 戦略的チャレンジ⑩⑪

グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進

大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進

■チャレンジの目的

○地域を支える産業の活性化

1 令和3年度の実績

- ① リニア開業と長野県駅の認知度を高める取組を強化
 - ・伊那谷を3大都市圏において広く認知してもらうため、企業訪問のみならず、あらゆる機会を通じて企業立地ガイド等でPRを実施
 - ・地域における企業誘致の方向性を明確化するため、3市、下伊那郡北部5町村の担当部課長等と意見交換を実施（2021年7月、2022年1月）
- ② サテライトオフィス・ワーケーション施設の情報発信
 - ・伊那谷の市町村等を対象にテレワーク等に関する勉強会を開催（2021年7月）
 - ・サテライトオフィス・ワーケーション施設を紹介するパンフレットを作成し、東京、名古屋、大阪等で配布しPR実施（2022年3月）
- ③ 「おためし立地 チャレンジナガノ」による地域と企業とのマッチング
 - ・課題を持つ市町村と課題解決企業とのマッチングを実施（2021年9月～）
 - 《辰野町》
 - ・地域交通最適化：（株）バイタルリード（島根県）
 - ・6次産業化への展開支援：XYZ（株）（松本市）
 - ・遠隔見守りシステム等の活用：AP TECH（株）（岩手県）
 - 《飯田市》
 - ・製造業の工場現場のDX推進：ものレボ（株）（京都府）
 - ・人材マッチングによる生産性向上支援：JOINS（株）（白馬村）
 - ・精密加工業の生産性向上：アルム（株）（石川県）

DEMODOY（成果発表会）
2022.2.14オンライン開催



2 課題

- ① 小さな町村は発信力やPR力が弱い、市町村と県とのプロジェクトチームを作り、企業への訴求力の高いメディアを活用した情報発信を行うことが必要
- ② ワーケーションや市町村との共創による地域課題の解決等、企業と地域のつながりの創出を強化

3 令和4年度の実績及び主体(案)

- ① リニア開業と長野県駅の認知度を高める取組を強化
 - 【産業労働部、地域振興局、市町村】
 - ・市町村が希望する企業を誘致するための情報交換、勉強会を実施（環境産業、IT関連産業のほか、ワーケーションやサテライトオフィス利用企業など）
 - ・企業立地ガイド（Web、冊子）による都市部企業への周知
 - ・展示会出展時に来場企業に向け、立地優遇制度をPR
- ② 市町村と県とのプロジェクトチームによるサテライトオフィス・ワーケーション施設等の情報発信
 - 【市町村、地域振興局、産業労働部】
 - ・参加意向のある上伊那、南信州の市町村と県とのプロジェクトチームの編成
 - ・県外事務所等を活用し、都市部企業への情報発信
- ③ 「おためしナガノ」事業、「おためし立地 チャレンジナガノ」事業の実施
 - 【産業労働部、地域振興局、探沢市町村】
 - おためしナガノ
 - ・県外のITを中心としたクリエイティブ人材・企業に対し、オフィス利用料、交通費等の補助により、最大6か月間程度、県内に「おためし」で住んで仕事をすることを提供
 - おためし立地チャレンジナガノ
 - ・市町村の地域課題の解決に取り組む企業を募集・マッチングを実施し、長野県内への立地を促進

リニア駅周辺整備の検討状況について

飯田市リニア推進部リニア整備課

1 これまでの経緯

- (1) 基本構想策定（平成 27 年 6 月）→ 基本計画策定（平成 29 年 6 月）
 - 基本設計、「飯田・リニア駅前空間デザインノート」とりまとめ（令和元年 12 月）
- (2) 実施設計（土木施設関係）への着手（令和 2 年 3 月）
 - ①土木施設の設計（道路・交通広場・駐車場・交流広場・調整池・造成（擁壁含む））
 - 建築施設の検討（大屋根の構造形式・法規制に関する事項・木材加工調達に関する事項他）
 - ②実施設計作業と並行して、デザインノートの内容の具現化に向けた必要な機能を検討するため以下の 3 つのプロジェクトを設置し、そこでの成果を実施設計に落とし込んでいく。
 - ・次世代インフラ PJ :【交通】【未来】の具体化（設計方針 1・5 関係）
 - ・トータルデザイン PJ :【居場所】【風景】の具体化（設計方針 2・3 関係）
 - ・ブランドクリエイイト PJ :【いざなう】【仕組みづくり】の具体化（設計方針 4 関係）

2 検討状況の報告

(1) 「市民向け検討内容報告の場」

- ・ 3 つのプロジェクトで検討を進めてきている状況を「市民向け検討内容報告の場」で報告を行う。
- ・開催方法：リニアに関する関心が高まるよう、コロナの県の警戒レベルに応じて、動画配信や報告会のオープン開催などの開催方法を検討中。
- ・各 P J における報告内容（検討状況の説明）

○次世代インフラプロジェクト

- ・モビリティ関係：MaaS, 駐車場, 交通広場等のトランジットハブとしての機能の整理など
- ・エネルギー関係：駅周辺のエネルギーエリア構築に向けたシステム検討など

○トータルデザインプロジェクト

- ・「デザインガイドライン」：「結いの広場」のコンセプトの整理、デザイン検討の展開など

○ブランドクリエイイトプロジェクト

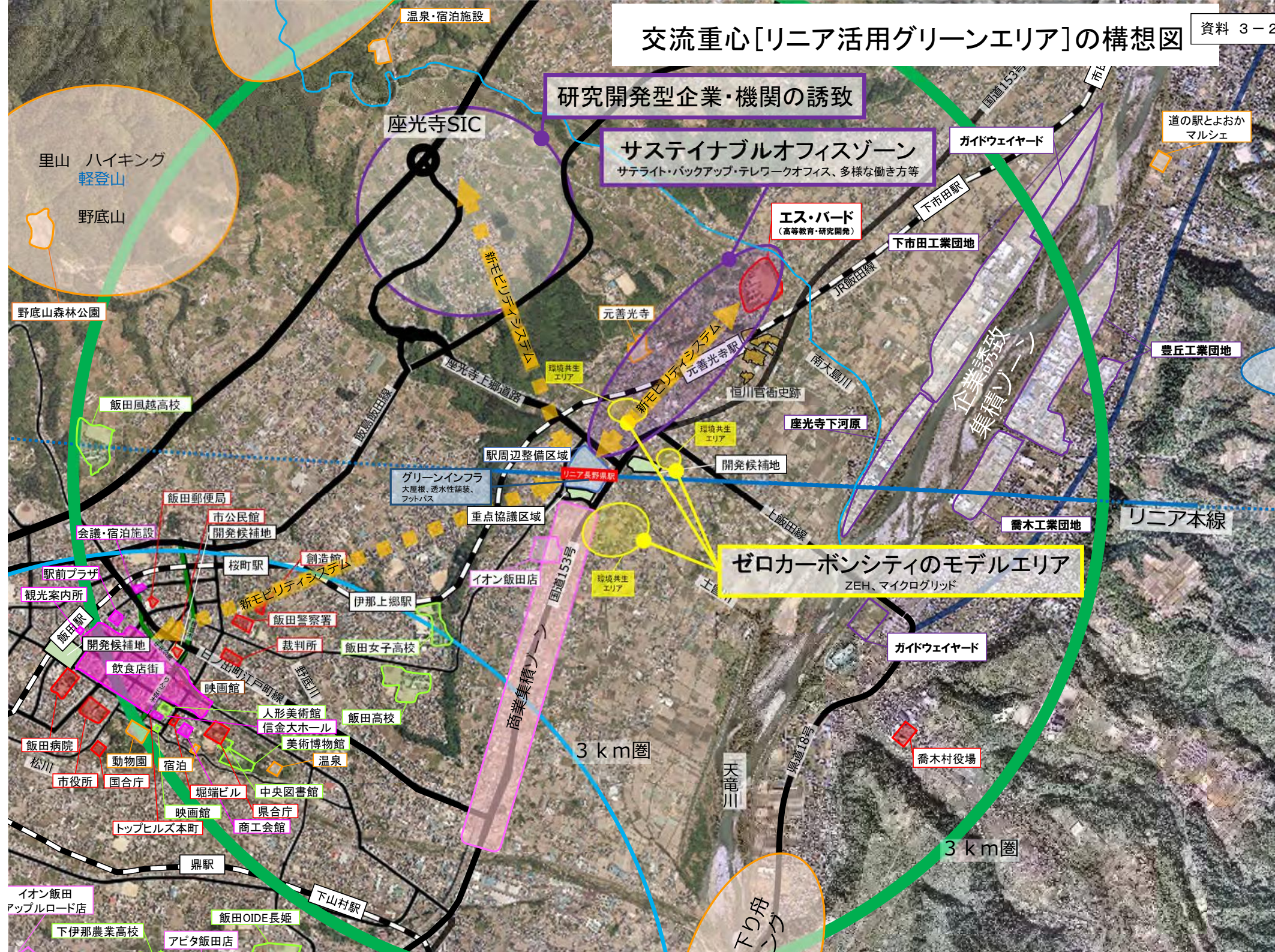
- ・公民連携の仕組みづくり：駅前広場を中心とする運営・管理における公民協働の意義など

(2) 「意見交換の場」

- ・「市民向け検討内容報告の場」の開催後、多くの市民から意見をうかがうことができるよう、1 ヶ月程度の期間でサイト、メール、出前講座等による意見募集を行い、その内容を踏まえて「意見交換の場」を開催する。また、次のステップである事業実施フェーズに向けた新たな仕組みと体制の構築を行うための起点と位置付ける。

(3) 今後の進め方の概要

- ① 1st STEP 3 つの P J の成果を「市民向け検討内容報告の場」で公表
- ② 2nd STEP 意見募集（サイト・メール）・意見聴取（出前講座等）（1 ヶ月程度）
- ③ 3rd STEP 募集・聴取した市民の意見を踏まえた「意見交換の場」の開催
- ④ 4th STEP 市民の意見を踏まえた実施設計（土木関係）の公表
- ⑤ これまでの各 P J の検討内容を実装化するための新たな仕組みの構築に向けた検討
 - 事業全体を取りまとめながら事業推進を担っていく組織の設置
 - 公民連携に向けた事業展開の構築と活動の展開 などを進めていく。



未定稿

南信州リニア未来ビジョン

(議論のための)



令和4年2月版

南信州広域連合

～2050年に南信州を日本一住みたい地域にするための未来像を描く～

リニア中央新幹線が開通すると、三大都市圏と南信州地域の時間的距離は大幅に短縮され、三遠南信自動車道開通の効果も相まって、「ヒト、モノ、コト」の流れが大きな潮流となり、この地域に様々なインパクトを与えると予想されます。このような大型交通インフラ整備を千載一遇の好機と捉え、新たな交流と地域資源の拠点を形成していくことが、南信州地域の発展につながっていくと考えます。

南信州広域連合が策定した令和2年度から6年度までを計画期間とした後期基本計画の中では、リニア開通の効果を地域振興に活かす観点から、この地域をどのようにしていきたいかをビジョン（絵姿）としてまとめていくこととしています。

折しも世界的なコロナ禍に直面し行政活動が制限される一方で、デジタル社会の急速な進展や地方回帰への関心の高まり、健康志向など、新たな価値観も生まれてきています。

南信州広域連合では、4つのエリアに分かれて行われた議論をもとに、このビジョンを策定しました。このビジョンは、いわゆる行政計画ではありません。郡市民の皆さんと地域づくりのイメージを共有するための一つの提案です。これをもとにして、「2050年に南信州を日本一住みたい地域にするためには」をテーマに、皆さんと意見交換をしていきたいと考えています。

《 ビジョンの構成 》

- 1 リニア開通で変わる南信州とビジョンの作成
- 2 リニア駅周辺図
- 3 飯田市（中部ブロック）のビジョン
- 4 北部ブロックのビジョン
- 5 西部ブロックのビジョン
- 6 南部ブロックのビジョン
- 7 南信州全域図（分野別）
- 8 おわりに

1 リニア開通で変わる南信州とビジョンの作成

(1) 多様な交流圏域の形成と「ヒト、モノ、コト」の流れ

リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通により、高速交通網でつながった都市圏からの来訪者が増加し、多様な交流が生まれることが期待されます。こういった流れを地域の中で大きな対流にしていくためには、広域交通拠点やそれぞれの地域拠点の連携を促進し、ヒト・モノ・コトがつながる交流圏域を形成していくことが必要です。そのためには、交流拠点間をつなぐ道路網の整備や交通の新機軸の構築は重要な要素と考えます。

南信州の主な道路軸は、西部軸（県道飯島飯田線～国道153号）、中央軸（国道153号～国道151号）、東部軸（県道1号）、外環状道路軸（西部軸～国道418号～国道152号～県道22号～県道59号）、東西横断軸（三遠南信自動車道～県道251号～座光寺上郷道路）などで構成されています。このうち西部軸の国道153号飯田南道路、東部軸の県道1号、東西横断道路の県道251号、外環状道路軸の国道418号については、国や県との連携を図り、整備を特に推進する必要があります。

また、中心市街地を取り囲む道路軸として、座光寺スマートICと山本JCTを經由して飯田上久堅喬木富田IC～国道256号などを結ぶ道路で構成される中環状道路軸が設定されています。さらに飯田IC～国道153号飯田バイパス～リニア駅～座光寺上郷道路～県道飯島飯田線～羽場大瀬木線及び中心市街地へアクセスする日ノ出江戸町線を加えた道路を、内環状道路軸と設定しています。

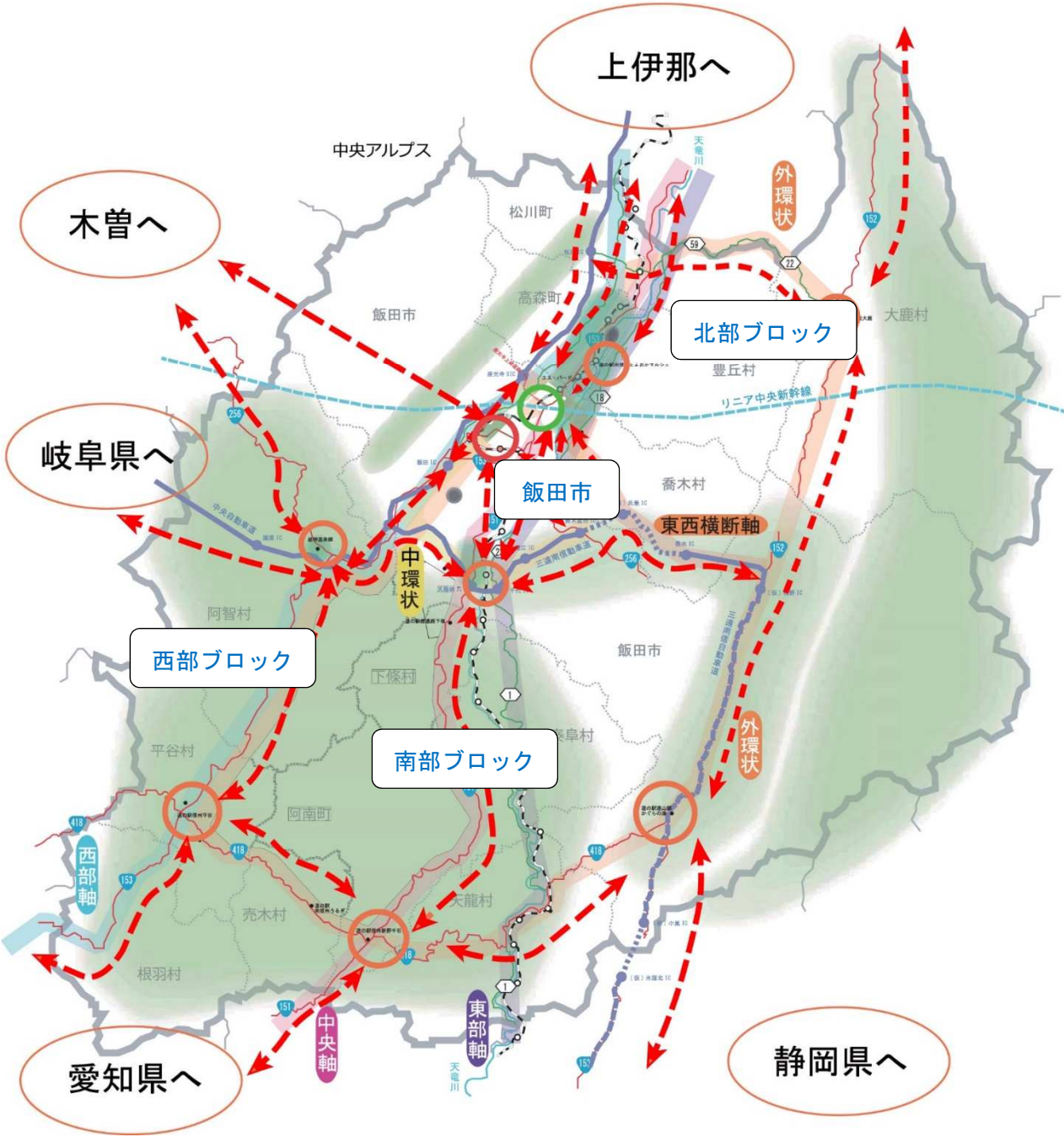
そのほか、南信州地域を南北に走る飯田線は、通勤通学のみでなく高齢者等交通弱者の足として利用されています。近年は、「秘境駅ブーム」等で観光面でも注目されており、リニア中央新幹線との連携を図ることで利便性が向上し、更なる活用が進むものと考えられます。

リニア開通効果を地域全体に波及させるためには、リニア駅を基点とした二次交通の整備を進めることが重要です。自動運転技術や新しいモビリティも活用し、需要に柔軟に対応できる交通システムの構築が求められます。

しかし、リニアの開通でヒトやモノの交流が盛んになり、経済の活性化につながることを期待する一方で、この地域の人々の圏域外への流出が進むのでは、という懸念もあります。そうならないために、生産年齢人口の増加に向けた積極的な対策が必要になります。また、地域の魅力、新たな価値の創造など、リニアが開通してもこの地域に住み続けたいと思えるまちづくりが必要です。

今回のビジョンは、このような二面性を意識しながら、どのような未来を描くことがこの地域にとって望ましいのか、その方向性を地域全体で共有するために、視覚的にも分かりやすい「未来の絵姿」という形でまとめました。

■リニア中央新幹線、三遠南信自動車道開通後の地域間交流のイメージ



(2) ビジョン作成のアプローチ（2つの視点と7つの分野）

ア 2つの視点

リニアの開通効果を活かし、地域振興につなげていくためには、外から呼び込む交流人口を増やすだけでなく、この地域から人々が離れていかないようなまちづくりが必要になります。

2050年に日本一住みたい地域になるということは、ここに住んでいる皆さんが「30年後にこんな地域になっていたらずっと住んでいたいな」と思えるようなまちにしていこうということです。下伊那郡部では、圏域ごとの議論で出された様々なアイディアを、住んでいる人が住み続けたいと思うまちづくりにつながるもの（内部目線）と、外の人を訪れたい、つながりたい（住んでみたい）と思うまちづくりにつながるもの（外部目線）の2つの視点を意識して整理してみました。

◆内部目線 … 住んでいる人が住み続けたいと思うまち

◆外部目線 … 訪れたい、つながりたい（住んでみたい）と思うまち

イ 7つの分野

住みたいまちづくりに必要な要素には、仕事、遊び、教育など様々な種類があります。これらをいくつかの分野にまとめて色分けし、視覚的に分かりやすくするため、ピクトグラム（事象をイメージ化した絵文字）でそれぞれのエリア図に表しました。同じピクトグラムでも分野が違う場合には、違う色で表すこととしています。

ビジョンに示す分野と色分けは、以下の7種類としました。

◆つながり・移住【赤】… 移住につながる外部との交流、企業誘致等（外部目線）

◆暮らし・仕事【橙】… 住まい、仕事（地場産業含む）、子育て、買い物等（内部目線）

◆観光・レジャー【緑】… 外部目線での観光や内部目線でのレジャー等

◆学び【青】… 高等教育、生涯学習、環境・スポーツ・キャリア教育、担い手教育等

◆健康・福祉【桃】… 医療、福祉、健康づくり、保養等（内部目線）

◆地域の財産【黒】… 育て守っていくもの、強み（風景、伝統文化芸能産業等）

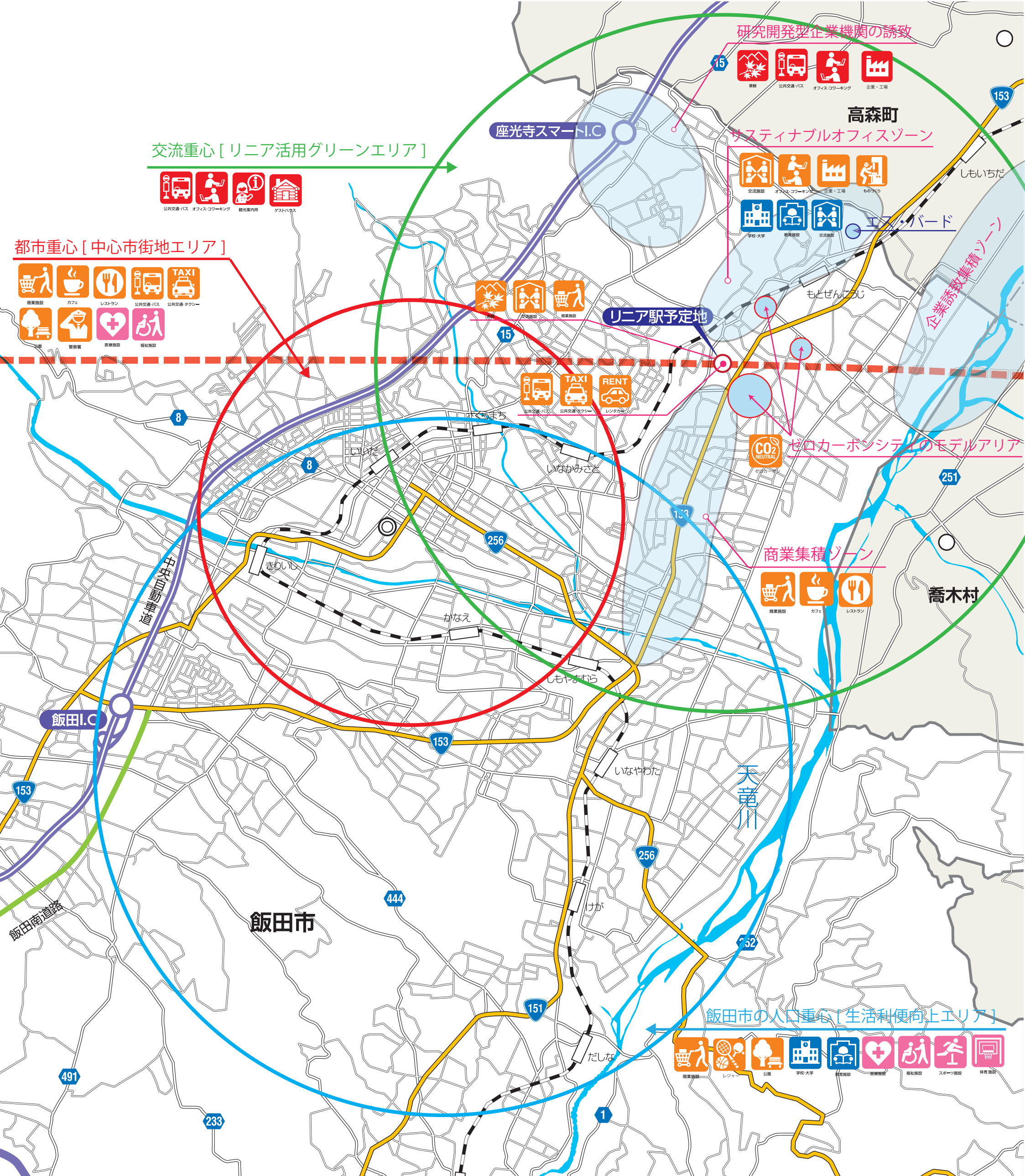
◆道路 … 新規路線、改良路線ほか特記すべき路線

(3) 南信州地域を構成する4つのエリア

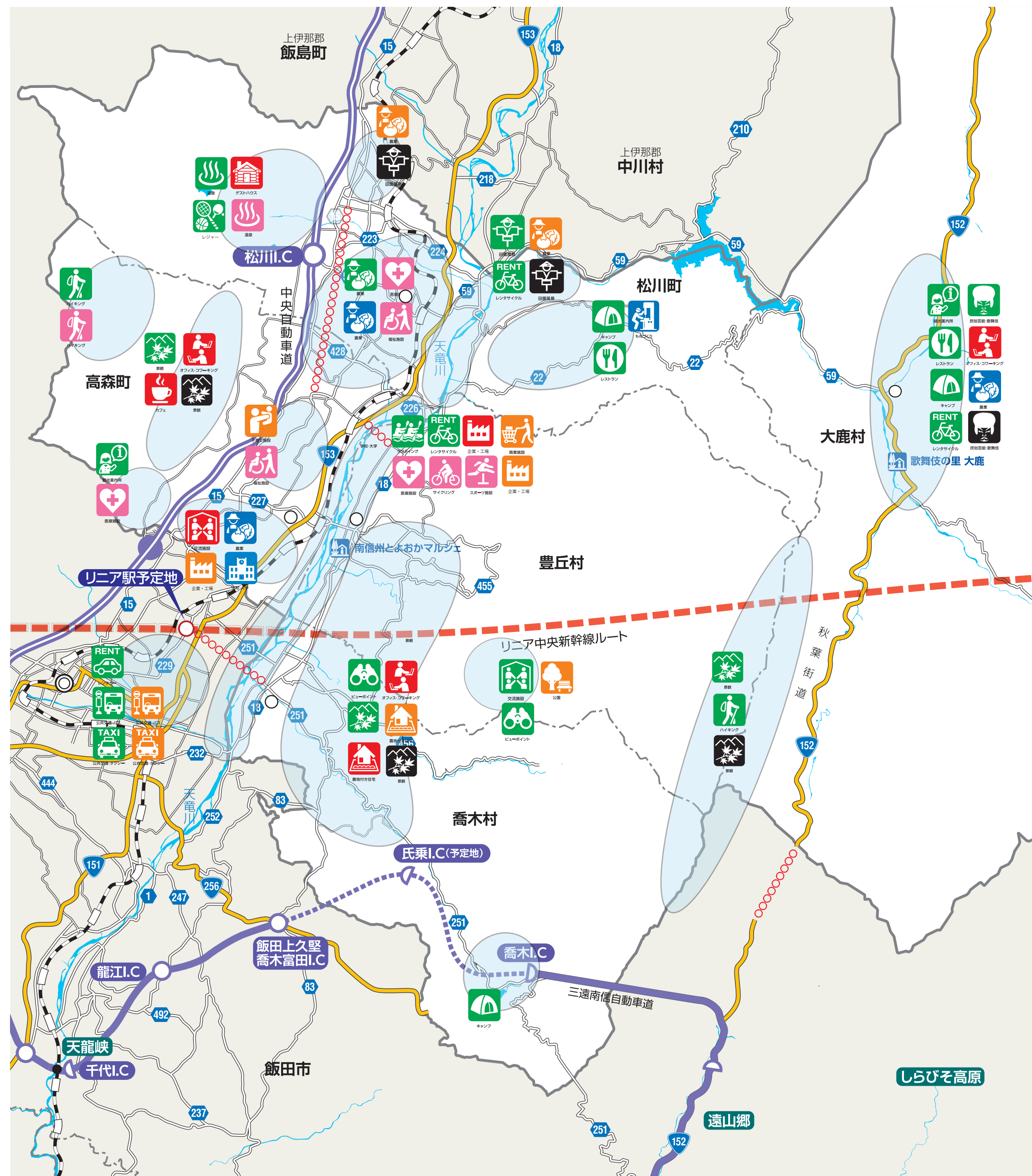
南信州地域は、飯田市と下伊那郡部の13町村で構成されています。このうち郡部は、北部（2町3村）、西部（3村）、南部（1町4村）の3つのブロックに分けられます。

このビジョンは、これら4つのエリアごとに検討チームを構成し「2050年に南信州を日本一住みたい地域にするためには」をテーマに、それぞれの自治体の枠を超え、広い視点に立って協議を行ってきました。各ブロックでの均等結果を広域連合として集約し、整理調整を行ったものが今回のビジョンとなっています。エリアごとテーマに対するアプローチの方法や検討の仕方が異なるため協議の進捗に差はありますが、これまでの議論を一旦とりまとめ、完成形ということではなく、現時点における地域の将来像として示しています。

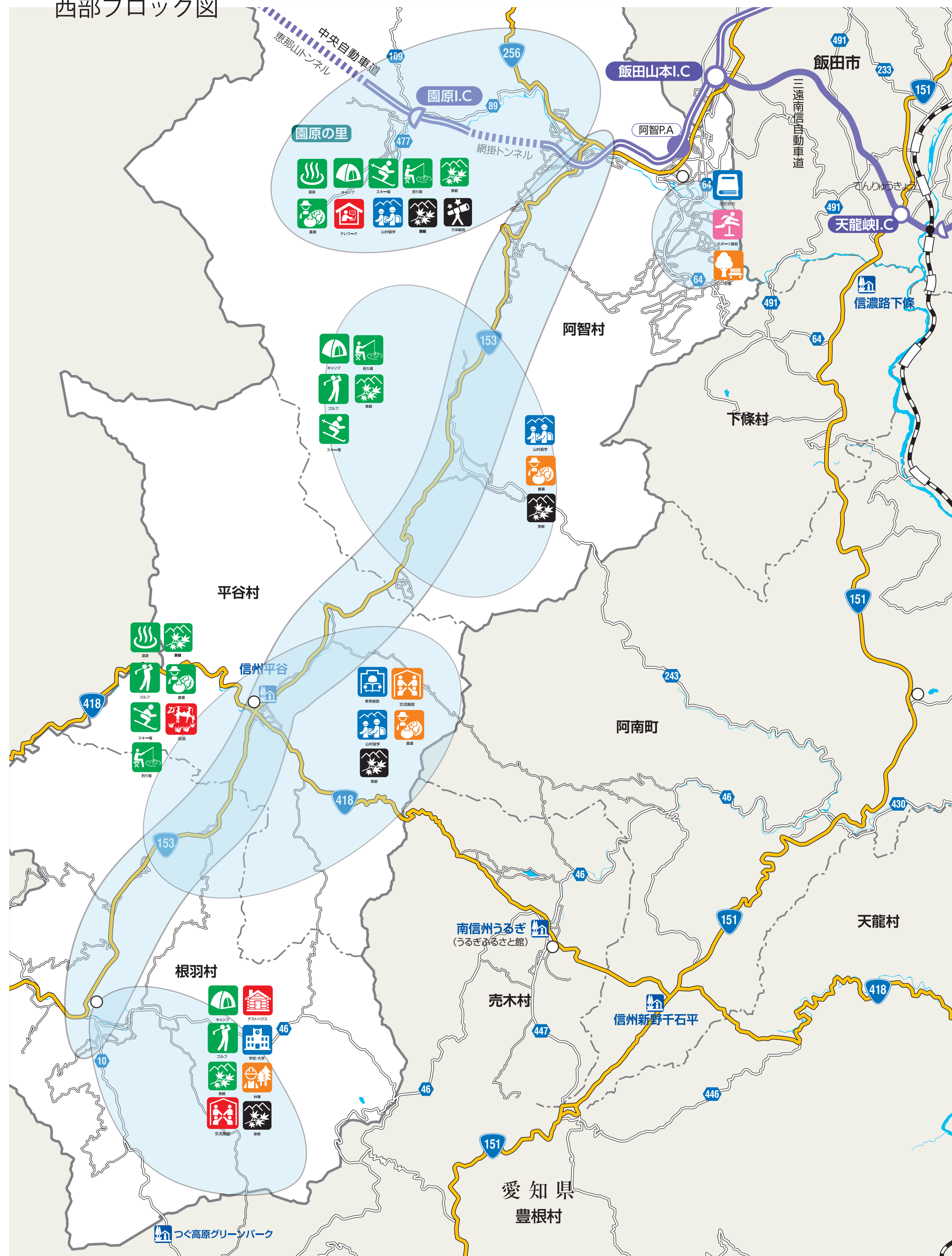
飯田市（中部ブロック）3重心図



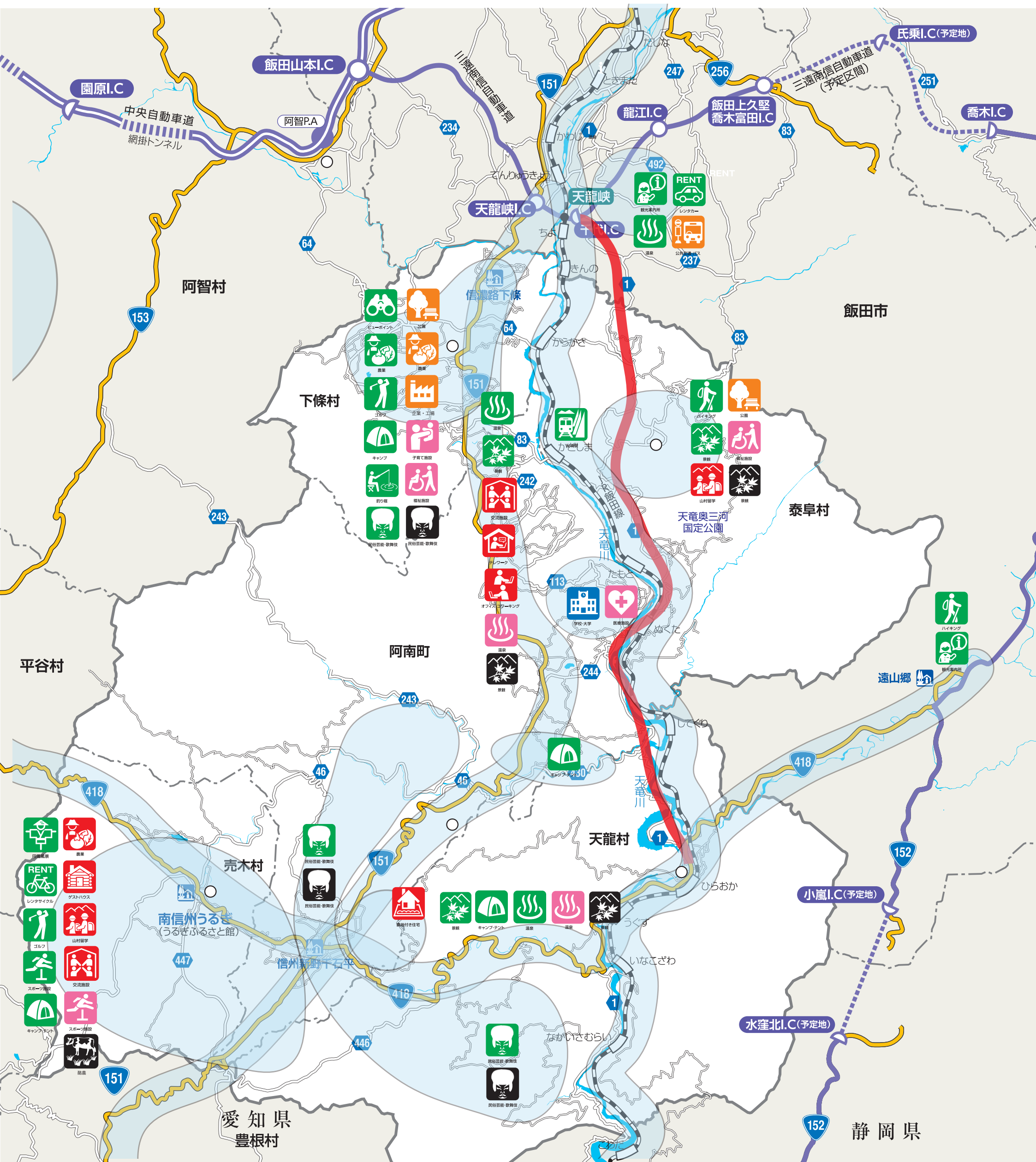
北部ブロック図



西部ブロック図



南部ブロック図



■つながり・移住の分野【赤】

○天竜川周辺&段丘ゾーン



- ・大学やエスパード等、若者を中心とした交流の場
- ・天竜川周辺の平地には工業団地があり、研究機関を含めた新たな企業誘致を図る。
- ・竜東側の段丘は眺望の良さを活かした農地付き住宅やサテライトオフィスを整備し移住につなげる。

○山岳ゾーン

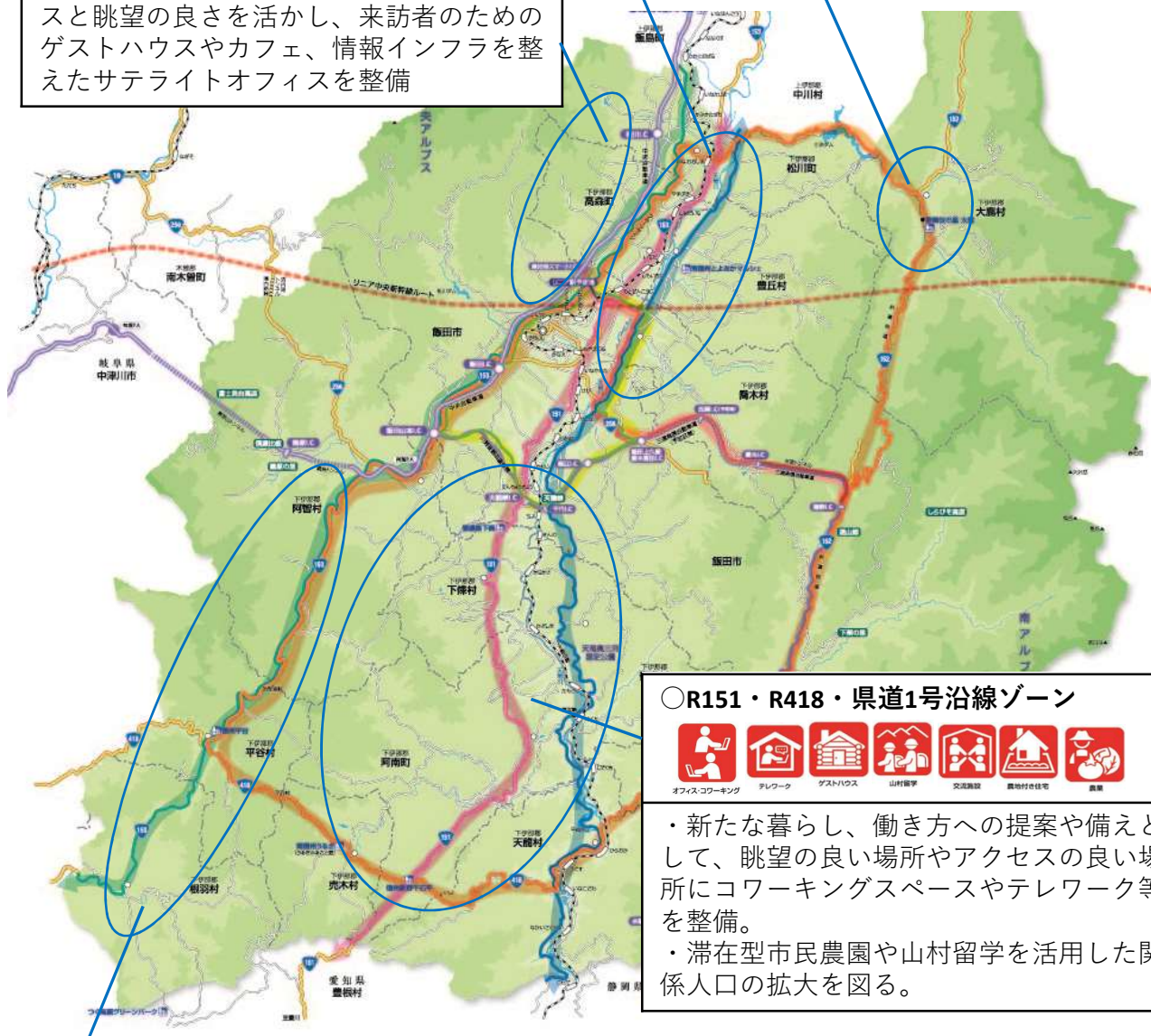


- ・豊かな自然と眺望の良いエリアに情報インフラの整ったサテライトオフィスを整備

○段丘上段ゾーン



- ・高速道路ICやリニア県駅からのアクセスと眺望の良さを活かし、来訪者のためのゲストハウスやカフェ、情報インフラを整えたサテライトオフィスを整備



○R151・R418・県道1号沿線ゾーン



- ・新たな暮らし、働き方への提案や備えとして、眺望の良い場所やアクセスの良い場所にコワーキングスペースやテレワーク等を整備。
- ・滞在型市民農園や山村留学を活用した関係人口の拡大を図る。

○R153・R256沿線ゾーン



- ・幹線道路沿線の豊かな観光資源を活かした中長期的滞在プログラムを構築するとともに、情報インフラやゲストハウス等を整備し、定住につながる関係人口の増加を図る。

■観光・レジャーの分野【緑】

○天竜川周辺&段丘ゾーン



- ・天竜川でのリバースポーツや、田園風景を楽しみながら流域を周遊できるサイクリングロードの整備
- ・眺望の良い段丘は、農業体験のほかリニアビューポイントやグランピングなどの体験施設を整備

○段丘上段ゾーン



- ・高速道路IC、リニア県駅からのアクセスや眺望の良さを活かしたレジャー施設の整備、農業体験、山岳観光等の推進

○山岳ゾーン



- ・地域に根付く伝統芸能の里
- ・南アルプス登山口など山岳観光の拠点として、キャンプ、サイクリング、山岳トレイル等を整備



○R151・R418・県道1号沿線ゾーン



- ・各町村に点在する温泉施設を拠点として、その周辺にある保養施設や観光施設と組み合わせることで回遊性を高め、滞在へとつなげる。

○R153・R256沿線ゾーン



- ・国道153号線と国道256号線の結節点に位置する昼神温泉をハブ拠点とし、多くの観光資源を結ぶ周遊型観光を推進する。

経済界(民間)との連携について

伊那谷自治体会議事務局

1 目的

リニア中央新幹線の整備を地域づくりに最大限活用するため、行政と民間がそれぞれ主体的に取り組みを推進するとともに、互いに連携した取り組みにより、活力のある地域づくりを加速化する。

2 経過

上伊那・南信州地域の企業等が広く加盟する団体に進めるべき取組を照会

【上伊那】

(公財)上伊那産業振興会

○経済団体、企業、東京・大阪・名古屋在住の上伊那出身者、移住者などからの意見を集約
(主な意見・提案 全 103 件)

- ・信大、南信工科短大を軸とした教育の充実
- ・郷土愛プロジェクトなど先進団体の活動波及
- ・自然景観、省資源に応じた環境・景観づくり
- ・企業体制強化と新ビジネススタイル創出
- ・スピード移動/ゆったり移動の見直しと充実
- ・様々な既存組織の役割分担と総力の結集
- ・知名度アップと周遊滞在型観光の推進

○提案内容をもとに具体的な取組例などの検討開始 (R 3.10～)

【南信州】

(公財)南信州・飯田産業センター

○リニアバレー構想に関する企業・団体からの提案をとりまとめ

(主な意見・提案 全 41 件)

- ・大学など高等教育機関の誘致
- ・都市部からの人材回帰やクリエイティブ人材の対流促進
- ・地域企業の競争力強化のための取組
- ・独自のライフスタイルを発信できるリニア駅周辺のモデル的な整備
- ・異業種の連携による誘客コンテンツの開発

○産業センター事務局と地域振興局において提案内容を整理 (R 3.10～)

3 今後の進め方

団体事務局と伊那谷自治体会議事務局において、提案のあった取組の実施内容、事業主体を明確にするための意見交換を実施、対応等を整理

(1) 行政と民間が共同して取組むもの

- リニアバレー構想の追加すべき視点に反映
- 役割分担、実施主体を整理、具体的取組の方向性を検討しWGを立ち上げ
- 試行的に取組を実施

(2) 上伊那・南信州の経済界が共同で取組むもの

※経済界において連携方法・進め方等を検討

(3) 上伊那・南信州の経済界がそれぞれ取組むもの

※経済界において進め方等を検討

伊那谷の「課題」と「可能性」

社会の変化

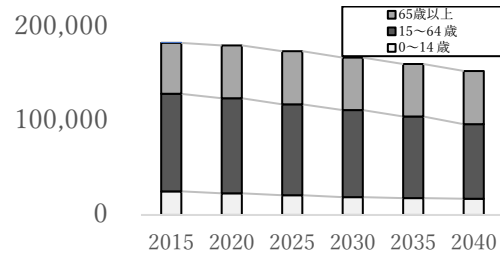
- 急激な人口減少・高齢化、首都圏への人口流出
- 生産年齢人口の減少
- Society5.0の実現で経済社会が大きく変貌（製造系雇用の減少、IT人材の不足）
- 世界経済に占める日本経済の地位低下
- 「物の豊かさ」から「心の豊かさ」への価値観の変化
- 求められる教育環境の変化

地域経済の課題

- 人口減少・流出。高齢化率が高く、地域の担い手が不足
- 豊かな自然環境が移住、観光誘客等に活かされていない
- 外国人旅行者数が少ない。日帰り観光が多く、一人当たり観光消費額が少ない
- 自家用車以外の移動手段が脆弱
- 国内外で、この地域の認知度が低い
- 全産業に占める情報通信業の割合が低い

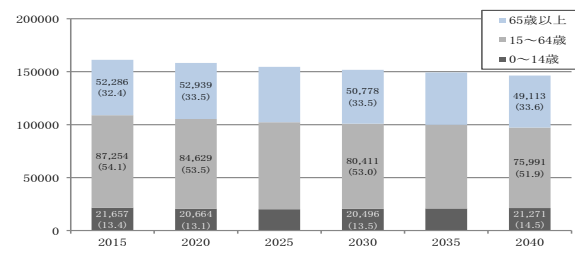
域内人口の減少 地域の衰退 域内経済の縮小

【上伊那地域の人口推移】



(注) 2015年は国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計

【南信州地域の人口推移】



(注) 2015年は国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計

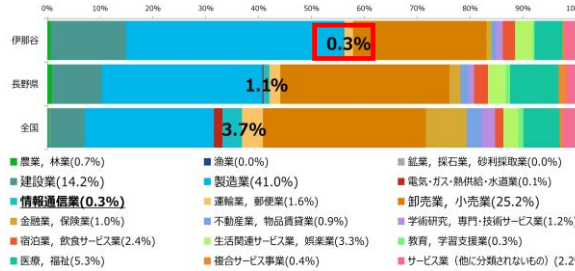
【リニア開業後の長野県駅への交通手段】
(伊那谷居住者の意向)



出典：リニア中央新幹線長野県駅とのアクセスのあり方調査事業報告書

(平成 29～30 年度実施)

【産業大分類別に見た売上高（企業単位）の構成比】



出典：RESAS（総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工）

人口減少に負けない持続可能な地域をつくる
大都市圏にない地域の価値を見出し、創り出し、磨き上げよう

伊那谷地域の4つの可能性
(目指すべき方向性)

1 雄大なツインアルプスと天竜川が織りなすダイナミックな自然環境を活かす

2 良好な自然環境のもとで生活しながら大都市の利便性を享受できる立地を活かす
(東京は行くところ！伊那谷は住むところ！)

3 国際空港、三大都市圏等へのアクセスの良さを活かす
(国内外からヒト・カネを引き付ける)

4 リニアがもたらす新たなヒト・情報の流れを、産業・研究・人材育成等に活かす

伊那谷地域の戦略的チャレンジ(具体的な取組)

豊かな自然環境と地の利を活かした持続可能な地域づくり

1 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす

- ① 景観形成、共通サイン整備 【三風の会＋南信州広域連合】
- ② 広域二次交通の整備【行政＋民間事業者】
(県交通政策課・地域振興局で枠組みを構築)
- ③ 移住定住・二地域居住のための住環境整備 【市町村】
- ④ 自然を活かした教育環境の充実 【市町村】
- ⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充 【企業・経済団体＋市町村＋地域振興局】

2 国内外から人を惹きつける地域をつくる

- ⑥ 周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備 【広域 DMO＋観光機構】
- ⑦ アルプス等自然環境の活用 【県環境部】
- ⑧ 伝統文化の保存継承、活用【南信州広域連合】
- ⑨ 国際交流・語学教育の推進 【市町村】
- ⑩ 広域二次交通の整備【行政＋民間事業者】 (再掲)
(県交通政策課・地域振興局で枠組みを構築)

3 地域を支える産業の活性化

- ⑪ グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進 【県産業労働部・地域振興局＋市町村】
- ⑫ 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進 【県産業労働部・地域振興局＋市町村】
- ⑬ 産・学・官・地域の人的交流の場（ナレッジスクエア）の形成 【市町村】
- ⑭ 地元産業の育成・高付加価値化 【経済団体・市町村】
- ⑮ 産業を支えるインフラ整備 【県・市町村等】
- ⑯ 農畜産業、食品産業等の活性化（アグリイノベーション）
【伊那谷アグリイノベーション推進機構・JA・市町村】
- ⑰ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充 【企業・経済団体＋市町村＋地域振興局】 (再掲)

赤字：リニア開業に向けて、各機関が連携して喫緊に取り組むもの
黒字：既に取り組が行われており、各機関において進めていくもの
※【】内は各取組の主体（事務局）となる機関

リニア開業に伴う今後の可能性

- 1 大都市圏と同一の交通圏
- 2 都市空間と自然環境空間が近接
- 3 リニア、高速道路、北陸新幹線で「本州中央部広域交流圏」を構築
- 4 国際空港、国際戦略港湾へ1時間でアクセス

● 新たなライフスタイルが実現することにより、移住・二地域居住が促進

● インバウンドを始めとする観光客が増加、観光消費額が増加

● 新たなヒトの流れが創出されることにより、産業・研究・人材育成等が促進



リニアバレー構想 ～信州・日本の伊那谷から世界の INA Valley へ～

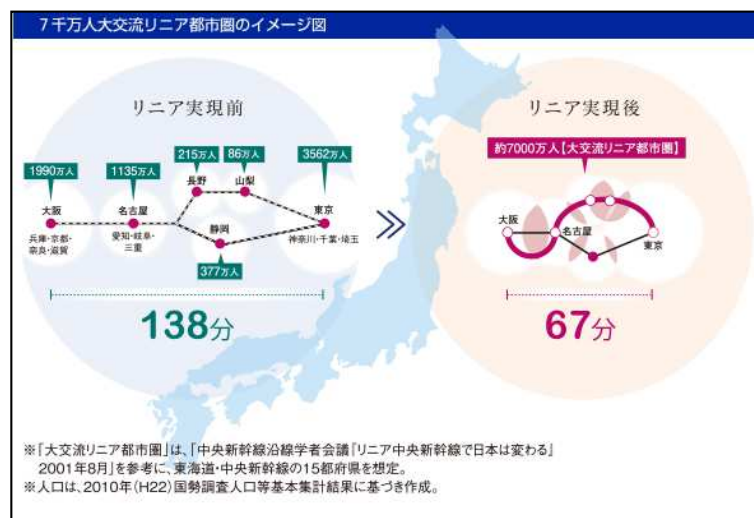
リニア中央新幹線整備を
地域振興に活かす伊那谷自治体会議

1 はじめに

➤ リニアが伊那谷にもたらすもの

○リニア中央新幹線は、その超高速性により国土構造の変革をもたらす国家的見地に立ったプロジェクトである。この新幹線により、三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ一体化し、世界最大のスーパー・メガリージョンが形成されることになり、4つの国際空港、2つの国際戦略港湾を共有した、世界から人・モノ・カネ・情報を引き付け、世界を先導していく地域に変貌する可能性が生まれる。

《スーパー・メガリージョンの形成》



（出典）リニア中央新幹線建設促進期成同盟会ホームページ

○リニア中央新幹線により三大都市圏の主要拠点が約1時間で結ばれることを受け、長野県が大都市圏と同一の交通圏に含まれることとなる。

さらには、人の移動といった輸送面のみならず、都市圏との新たな人の流れが創出されることにより、飛躍的に知の集積も進むことになり、産業・研究・人材育成など各分野の構造に大きなインパクトを与える。

《ナレッジ・リンクの形成》



（出典）国土のグランドデザイン2050

《高度な都市空間と大自然に囲まれた空間が
近接した新しいライフスタイルが実現》

○リニア長野県駅の活用により、これまで都会から短時間でのアクセスが困難だった地域への人の流れを生み出し、優れた景観や自然環境との日常的な触れ合いを可能にするなど、高度な都市空間と大自然に囲まれた空間が近接した新しいライフスタイルが実現する。



《本州中央部広域交流圏のイメージ》

○リニア中央新幹線と北陸新幹線、並びに高速道路網の整備により、東日本と西日本、太平洋と日本海を結ぶ「本州中央部広域交流圏」が本県を中心に構築され、それが災害に強い国土づくり、田舎暮らしの促進による地方への人の流れの創出につながる。

また、東京一極集中からの脱却にも寄与できる。

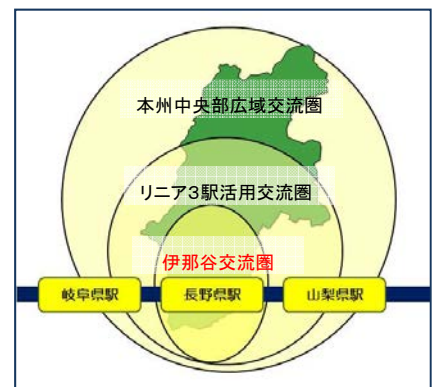


(出典) 長野県新総合交通ビジョン

➤ 長野県リニア活用基本構想との関係

「長野県リニア活用基本構想」では、右図に示した3つの重層的な交流圏を構築することによって、交流人口の拡大などリニアの整備効果を最大限に発揮させていくことを想定している。

リニアバレー構想は、リニア長野県駅の駅勢圏である「伊那谷交流圏」を今後どのように形成していくかの指針となるものである。



(出典) 長野県リニア活用基本構想

2 リニアバレー構想が目指す姿

平成 39 年にリニア中央新幹線の間駅が伊那谷に設置される。

この地域が、リニアの整備効果を最大限に活用して、地域発展の原動力とすることで、身近になる大都市や世界の活力を引き寄せ、豊かな自然環境の中で地域も人々も輝く「リニアバレー」を実現する。

- I 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点
～世界とつながる～
- II 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点
～日本を支える～
- III 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」
～ここで豊かに暮らす～
- IV 世界から人を呼び込む感動フィールド
～ここでふれあう～

I 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点 ～世界とつながる～

○首都圏と中京圏との中間に位置することに加え、アジアや欧米諸国の主要都市への玄関口である東京国際空港や中部国際空港へのアクセスが1時間程度となる。伊那谷では、特に東京国際空港へ東京近郊感覚でアクセスが可能となることや、恵まれた自然環境と高い精密加工技術を有する企業集積があることなどの特徴を踏まえ、外資系企業やグローバル経済圏で活動する企業の中核機能の受け皿を目指すとともに、既存の産業集積を活かした次世代産業の創出を目指す。

《目指す姿を実現するために》

- ・国際空港への近接性を活かすとともに、創業支援やビジネスマッチングの取り組みを進めることで、外資系企業やグローバル経済圏で活動する企業の本社、研究開発機能などの中核機能の立地を促進する。さらに、リニア中央新幹線の開通に伴うメリットを既存産業の活性化につなげることで、高度な都市生活と豊かな自然環境が共生する新しい企業集積地を目指す。
- ・最先端産業や地場産業の支援機能、大学連携組織、高等教育機関などを結集させることにより、産・学・官・地域の人的交流の場、ナレッジスクエアを形成し、「知」と「産業」の集積を進める。また、これらの推進に当たっては、産学官など関係者の連携により、基盤となる事業や中核となる体制づくりについての研究を進め、その成果を発信することで、グローバル活動拠点としての優位性につなげていく。
- ・国際戦略総合特区「アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の指定を活かしつつ、アジア最大級の航空宇宙産業集積地である東海地域と伊那谷とのアクセス向上により、技術連携を進め、本県の強みである微細精密加工技術を活用した航空宇宙産業クラスターの形成を促進する。

- ・健康・医療・介護分野への企業の新規参入を促進するとともに、県看護大学や地域の医療機関をはじめとする関係機関等との連携を深め、新たな医療系食品の研究や医療機関からのニーズを反映した医療機器の開発、医療に携わる者の人材育成・確保のための取り組みなどを進めることにより、健康長寿社会を支える産業集積（メディカルバイオクラスター）を目指す。

Ⅱ 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点 ～日本を支える～

- 首都直下地震の発生リスクが高まる中で、首都圏と中京圏の中間に位置し、かつ大都市圏との移動時間が短いという地の利を活かして、都市機能や政府系研究機関の移転、企業の中枢機能のバックアップ施設や災害発生時の食料供給・医療提供の拠点の受け皿などにより、日本を支える役割を目指す。
- 農産物の付加価値を高めるアグリビジネスの推進や森林資源の活用など、伊那谷の多様な資源を活用することにより、食料やエネルギーなどの新しい供給拠点をを目指す。

《目指す姿を実現するために》

- ・優良な農業環境や豊富な水資源を有し、内陸県であって津波の被害を受けないなど災害に対して強みを有している伊那谷の特性を十分に検証することで、首都直下地震発生時に日本を支えリスク分散を図る地域として強くアピールし、研究機関や企業の本社機能など都市機能の移転を促進する。なお、これらの推進に当たっては、関係機関で先進事例の研究や課題の整理などを行い、災害時のバックアップ拠点として、都市部から求められる地域像について検討する。
- ・巨大災害発生により首都圏にある本社機能が被災しても円滑に事業活動が継続できるよう、企業経営者の居住地等を整備する。
- ・地域医療の体制・連携を更に充実させることにより、発災時の後方医療支援拠点、災害活動拠点としての機能整備を図る。
- ・県の道路ネットワーク構想を補完する形で市町村道等の道路網構想を策定し、日常の道路交通の確保を図るとともに、災害時の緊急輸送ルート確保のための道路整備や橋梁の耐震補強に取り組む。また、土砂災害対策など、圏域をあげての防災力向上に取り組む。
- ・伊那谷に位置する大学等の知的財産を活用した産学官連携による、農畜産業、食品産業及び関連産業を活性化するための取り組み（アグライノベーション）を進める。また、地域在来の農林産物や食文化の特性を改めて見直し、農産物の新たなブランド化、伊那谷の特産品を活かした6次産業化など付加価値の高いアグリビジネスによって、健康長寿県における食をメインとした伊那谷モデルを構築し地域の魅力を高める。
- ・ヒノキ、アカマツ、カラマツなど伊那谷の多様な樹種を活用できるよう、各機関が連携し、木造住宅の建設を図るための木材の安定供給体制の構築や森林環境保全、木質バイオマスの利活用の推進、森林整備の担い手の確保・育成などに取り組み、林業振興を進める。

Ⅲ 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」 ～ここで豊かに暮らす～

- 「高度な都市環境の中で働き、大自然に囲まれた環境の中で暮らす」、「平日は大都市圏に住んでいても、週末や一定期間に限って豊かな自然環境の中で伝統文化に触れて暮らす」など、新しいライフスタイルを提供する「対流促進圏域」を形成する。
- 伊那谷の伝統文化や自然環境を守るなど、住民が伊那谷で豊かに暮らすための取り組みを進める。

《目指す姿を実現するために》

【移住定住・二地域居住の促進】

- ・都市圏での二地域居住に関する意向調査や他都市の先進地事例の情報収集、新たな生活モデルの提案などについて、広域連合や定住自立圏の枠組みを活用し、研究を進める。
- ・伊那谷を「思考活動・憩い・住居の場」と位置付けた上で、「東京・名古屋への通勤ゾーン」「二地域居住ゾーン」など、様々な居住ニーズに応じた圏域内のゾーニングについて検討を進める。
- ・リニア長野県駅へのアクセス環境に応じて、分譲地の整備や空き家の改修、相談体制の充実など、定住や二地域居住に必要な環境の整備及び各種支援策の検討を進めるとともに、U J I ターン希望者や首都圏の学生などへのきめ細やかな情報提供を行う。
- ・都会で生まれ育った人たちに対し、自然エネルギーの活用によるエコロジーに着目した生活スタイルやクライングルテンでのお試し居住を提案していくなど、定住につながる取り組みの充実を図る。

【豊かに暮らすための地域づくり】

- ・我が国を代表する伊那谷の伝統文化の保存と継承に向けた活動を進め、郷土意識の醸成や担い手の育成・確保に努めるとともに、誇りある資産として地域の活性化に活かしていく。
- ・特色ある食文化を背景とした健康長寿に向けた取組、子育てしやすく、子どもたちの希望がかなう教育環境の整備、地域の子どもたちへの郷土愛の醸成など、様々な視点から伊那谷に住む人が豊かに暮らすための地域づくりを推進し、新たな文化の創造につなげる。
- ・これらの取組を通じ、将来的に伊那谷を支える人材を育てるとともに、若者を引き付ける魅力ある地域を目指す。

【魅力ある自然環境の保全と景観の形成】

- ・南アルプスの世界遺産への登録や中央アルプスのジオパーク認定に向けての取組、中央アルプス県立公園の国定公園への格上げに向けた研究などを通じ、アルプスや里山の山並み、段丘や田園風景など伊那谷の美しく雄大な自然環境を守り、地域の宝として育て活かしていく。
- ・恵まれた自然や先人により育まれた歴史・文化が織りなす町並みなど、伊那谷地域が誇る美しく豊かな景観を守り継承するとともに、リニア整備を契機として新たに創り出される景観が魅力あるものとなるよう、広域的な看板デザインのルール化や屋外広告物の規制にも取り組み、調和の取れた景観の形成を目指す。

Ⅳ 世界から人を呼び込む感動フィールド ～ここでふれあう～

○南アルプス、中央アルプスといった山岳高原や多彩な伝統文化を活かして、美しい信州の原風景や文化にふれあうなど、インバウンドも含めた広域観光の推進により交流人口が拡大する感動のフィールドを目指す。

《目指す姿を実現するために》

【広域観光ルートづくり】

- ・自治体、観光協会、観光関係団体、旅行事業者等で構成する協議会等を設置し、木曽路をはじめ他の観光地と結んだ旅の提案や北陸新幹線との連携など、広域的な信州の旅を満喫できるよう、日本アルプスの玄関口としての役割が期待されるリニア長野県駅を拠点とした多様な観光ルートづくりに取り組む。
- ・交通事業者と連携し、リニア長野県駅からの二次交通の確保・整備を進める。

【体験型観光の推進】

- ・観光協会や民間事業者等と連携し観光資源の掘り起こしを進め、豊かな里山資源を活用した山菜・きのこ狩り体験や農業体験、田舎暮らし体験、登山・山岳散策をはじめとするアウトドアスポーツなど、魅力ある多様な体験ツーリズムを確立する。
- ・健康志向の高まりの中で、豊かな自然環境、温泉、農産物を活かし、健康に関心を持つ多くの方に訪れていただくよう、ヘルスツーリズムを推進する。
- ・全国に先駆けて実施した、生活文化を活かした体験修学旅行を更に発展させ、フィールドスタディの誘致を促進する。
- ・コーディネーターなどの担い手の育成や効果的な情報発信のあり方など、体制整備について検討する。

【外国人旅行者の誘客】

- ・マーケティング調査によるトレンドの把握等を通じ、伊那谷の伝統・文化を活かした観光資源を磨き上げ、観光地や宿泊施設の魅力向上、滞在プログラムづくりなど、外国人旅行者に対する訴求性を持った観光ルートの形成に地域をあげて取り組む。また、海外へのプロモーションについても検討する。
- ・外国人旅行者が安心して快適に移動・滞在することができるよう、観光情報の一元化や情報発信に向けた広域的な連携を進めるとともに、案内標識やパンフレット等の多言語化、公衆無線 LAN 環境の整備など、得たい情報へのアクセスが容易になるような仕組みを検討する。

【豊かな自然と実績を活かした国際交流】

- ・独立行政法人国際協力機構・青年海外協力隊訓練所を拠点としたグローバル人材の育成、在日大使館との連携を進めるとともに、国の内外から様々な会議を誘致するなど、豊かな自然環境や伝統文化を活かした国際交流を推進する。
- ・リニア時代に地域の主役となる子どもたちへの国際理解教育や語学教育を進める。

3 構想実現のための基盤整備

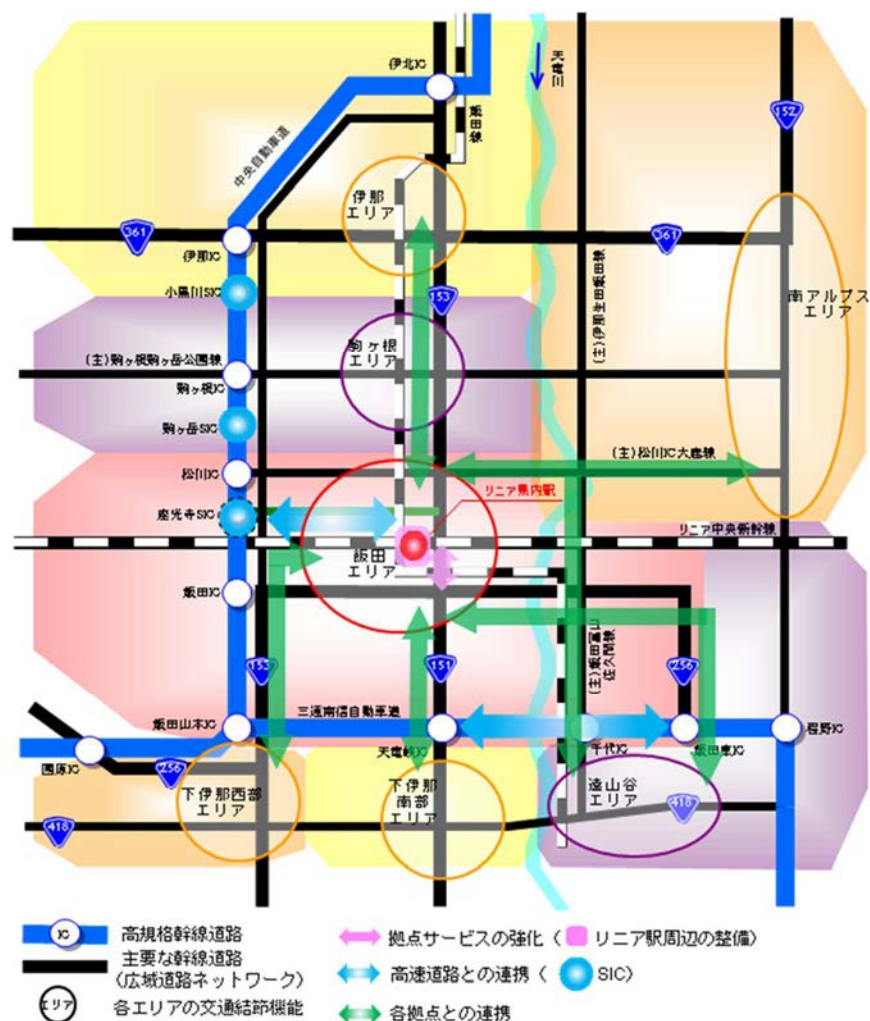
○リニアバレー構想の実現に向け、長野県の南の玄関口となるリニア長野県駅を多くの人々にとって利用しやすい駅とするため、県内外の広範な地域からの多様で良好なアクセスを確保する。

○こうした整備を進めることで、伊那谷の人口のおよそ85%が東京圏90分圏域、60%が名古屋圏60分圏域となるようにする。

➤ 目指す姿を実現するために

- ・三遠南信自動車道等の整備や高速道路とリニア長野県駅との直結、スマートインターチェンジの設置など、リニア長野県駅と高速道路との連携を強化するとともに、拠点間を円滑に結ぶ幹線道路を整備するなど、伊那谷の広域道路ネットワークを構築する。
- ・リニア長野県駅からの乗換を円滑に進めるため、駅周辺の広場や道路の整備を図るとともに、二次交通の整備など、住民や観光客の利便性向上に向けた取組みを進める。
- ・J R飯田線への乗換新駅設置の検討や、リニアのダイヤに合わせた在来線運行体系の実現に向けた調整など、リニア長野県駅とJ R飯田線との連携に向けた取組を進める。

《広域ネットワークのイメージ図》



※図は『リニアを活かした「地域づくり勉強会」』検討成果から抜粋